

2019 年度
「シチズンシップ・スタディーズⅠ」
受講ガイド

立命館大学サービスラーニングセンター

衣笠：有心館 1 階

Tel: 075-465-1952 / Fax: 075-465-1982

BKC：アドセミナリオ 1 階

Tel: 077-561-5910 / Fax: 077-561-5912

OIC：A棟 1 階AN事務室

Tel: 072-665-2195 / Fax: 072-665-2059

（3 キャンパス共通）

窓口時間（開講期間中）：月曜日～金曜日/10:00～17:00

サービスラーニングセンターe-mail: ritsvc@st.ritsumei.ac.jp

サービスラーニングセンターHP: <http://www.ritsumei.ac.jp/slc>

目 次

はじめに（重要なお知らせ）	3
ボランティア活動を通して地域で学ぼう！	
ボランティアだけど奉仕活動じゃない。授業だけど講義じゃない。それがサービslラーニング！	
1. 「シチズンシップ・スタディーズⅠ」の流れ	5
2. 学研災付帯賠償責任保険について	7
3. 評価について	7
4. 受講の中止について	7
5. 大学での授業スケジュール	8
6. 教員による指導・アドバイス（コアタイム）、受講中の諸相談について	10
7. 学部別単位授与について	11
8. FAQ（よくある質問）	12
9. 活動する上で心がけたいこと	13
10. プロジェクト紹介	14～

プロジェクト一覧

キャンパス	プロジェクト名	クラス	担当 教員	曜日	時限	掲載 ページ
衣笠	時代祭応援プロジェクト	G A	山口	火	5	P 14
	里山×若者プロジェクト	G B	秋吉	火	4	P 16
B K C	草津街あかり・華あかり・夢あかりプロジェクト	G 1	宮下	火	5	P 20
O I C	茨木火起こしプロジェクト ー持続可能な地域づくりー	G V	秋吉	水	4	P 24
3 キャンパス 合同	ネパール未来プロジェクト ーフェアトレード・子どもの貧困から考えるー	G S	秋吉	土日等		P 26
	減災×学びプロジェクト	G T	山口	土日等		P 28

⚠ はじめに（重要なお知らせ）

- ✓何事においても積極的に取り組んでください。
- ✓ボランティア活動に責任をもち、途中で投げ出さず、常にあなたのやる気を発揮してください。
- ✓ボランティア活動全体を通して、仲間とのコミュニケーションを心がけ、すべての仲間への配慮を忘れないでください。
- ✓キャンパスを離れ、地域で活動し、学んでいることに留意し、常に地域社会の一員として自覚ある行動を心がけてください。
- ✓ボランティア活動先でトラブルなどが発生した場合は、直ちにサービスラーニングセンターに相談してください。
- ✓本ガイドや各種書類、サービスラーニングセンターホームページの情報をよく読み、記載内容の見落としがないよう注意してください。
- ✓各種提出書類の期限を厳守してください。
- ✓各種書類の提出は本人に限ります。
- ✓不明な点や質問がある場合は、サービスラーニングセンターに問い合わせてください。
- ✓記載されている内容や日程が予告なしに変更される場合があります。各自、確認を心がけてください。



ーボランティア活動を通して地域で学ぼう！ー

「シチズンシップ・スタディーズⅠ」は、立命館大学サービslラーニングセンターが開講する正課科目です(課外活動ではありません)。この授業は、みなさんがボランティア活動を通じて地域に貢献しつつ、地域社会の一員としての自覚と能力を育み、専門知識の応用的な理解を深めることを目標としています。

ボランティア活動は、大学のキャンパス内だけでは得られない、かけがえのない経験を受講生にもたらしてくれます。さらに、地域で活動を行うことは、自らが暮らす地域をこれまでとは違った視点で捉えることを可能にするだけでなく、大学で学ぶ知をいかに地域で活かせるかを学ぶ契機となります。

ボランティアプログラムの開発・運営にあたっては、大学やサービslラーニングセンターが京都府、滋賀県や大阪府内の行政、公的機関、NPO、地域組織などと協定(覚書)を締結した上で実施します。

ボランティア活動の期間は、数日程度の短期で行うものから、数ヶ月程度の長期で行うものまでさまざまです。受講生が自身の興味や関心に沿って、参加するボランティア活動を選択することができます。

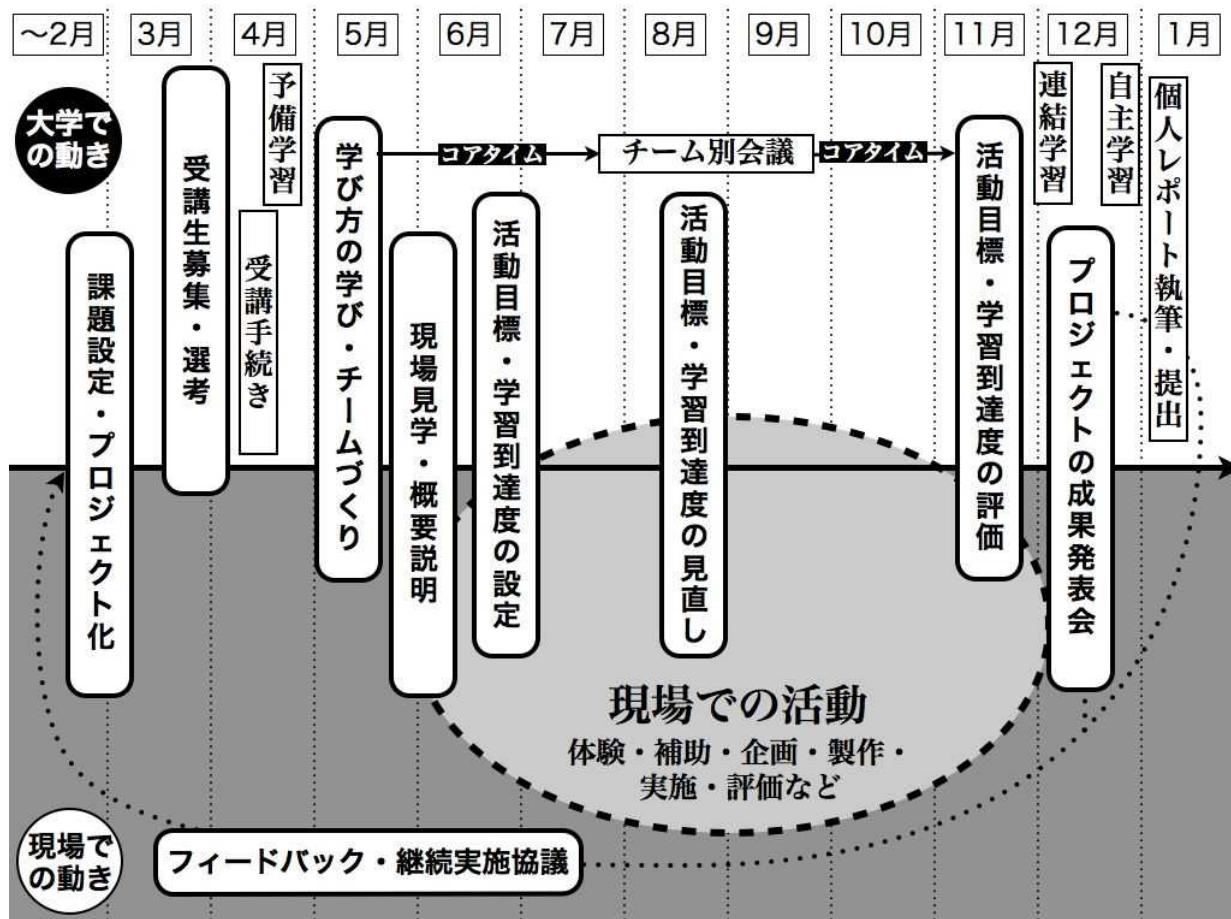
ボランティア活動の魅力を体感しながら、大学で学ぶ知に生きた風を呼び込んでください。

ーボランティアだけど奉仕活動じゃない。授業だけど講義じゃない。

それがサービslラーニング！ー

「シチズンシップ・スタディーズⅠ」は、「奉仕活動」ではなく「ボランティア教育」プログラムです。ボランティア教育とは、体験的学習の一形態で、ボランティア活動を中心に事前・事後の学習(研修・振り返り)を組み、明確な教育目的に基づいて行われる教育プログラムです。よって、ボランティア活動を通じて、他者や地域(コミュニティ)の役に立つだけでなく、そこから学習効果を得られるよう設計されます。この点が、純粋な「奉仕活動」との違いです。単にボランティア活動に参加すれば、単位が認定されるというわけではありません！ボランティア活動を通して何を学びたいのか、確かな問題意識をもって取り組むことが重要です。

また、このような教育手法は、欧米ではサービslラーニング(service-learning)またはコミュニティサービslラーニング(communit service-learning)と呼ばれています。



1.「シチズンシップ・スタディーズⅠ」の流れ

エントリー

エントリー期間

2019年3月22日(金)10:00～4月8日(月)11:00

エントリー方法

サービスラーニングセンターホームページ内「シチズンシップ・スタディーズⅠ」のページより、Web 上にて必要事項を入力し、エントリーしてください。

⚠ エントリーに伴う諸注意

- ・エントリーの内容をもとに選考を行います。
- ・1人の受講生が参加できるのはひとつのプロジェクトのみです。
- ・選考を通過した人数が5人未満の場合、プロジェクト実施を中止する場合があります。
- ・所属キャンパスと異なるキャンパスをベースとするプロジェクトに参加することはできません。

選考結果発表と必要な手続き

発表日時 : 2019年4月8日(月)17:00

発表方法 : サービスラーニングセンター窓口・HP

※ 早めに確認してください。

※ 受講前ガイダンスの案内も掲示します。

受講許可者を対象に、以下日程で受講前ガイダンスを行います。

GA:4月9日(火)5限 GB:4月9日(火)4限

G1:4月9日(火)5限 GV:4月10日(水)4限

GS:4月14日(日)4限・5限 GT:4月14日(日)4限

事前学習Ⅰ・Ⅱ(授業2回分)

- ①ボランティア活動について理解を深める
- ②ボランティア教育について理解を深める
- ③ボランティア教育(シチズンシップ・スタディーズⅠ)における「学び方」を理解する
- ④地域に入って活動するための心構えを整える
- ⑤受講生同士が交流し、これから共に活動し、学ぶ仲間としてチームワークを育む



オリエンテーション

- ①ボランティア活動先の地域について理解を深め、ボランティア活動の意義を考える。
- ②地域に入って活動するための心構えを整える。
- ③受講生同士が交流し、これから共に活動し、学ぶ仲間としてチームワークを育む。

課題

オリエンテーションの終了後、各自ジャーナルを作成し、事前学習Ⅲに持参すること。

事前学習Ⅲ(授業1回分)

- ①プログラム毎に受講生全員が共有する「活動の目標」と受講生個別の「学びの目標」を設定し、活動と学びの準備を整える。
- ②大学での学びと地域課題を結びつける視点をもつ。

持参物:ジャーナル



ボランティア活動（42 時間以上）

- ①(地域への貢献) 地域において課題解決の一助となり、地域(地域住民)に貢献する
- ②(学習効果) 社会の一員としての自覚と能力を育み、かつ受講生が日々大学で学ぶ専門知識の応用的理解を深める

⚠ 活動時間の合計はプログラム共通で 42 時間以上が必要です。活動時間には、活動先でのオリエンテーションや反省会なども含まれます。

⚠ 以下の時間はボランティア活動時間には含まれません。その他の活動で、ボランティア活動に含まれるかわからない場合は、担当教員に相談してください。

- ・授業
- ・授業や活動報告会の準備
- ・コアタイムでの教員による指導、アドバイスの時間

⚠ 毎回の活動時間ごとに、「活動時間記録シート」に受け入れ先のサインをいただき、「ジャーナル」に活動内容と学んだことを記入すること。

コアタイム(週 1 回)

- ① それぞれの活動先での取り組みを共有し、学びを深めるための時間を設ける。
 - ② 担当教員による指導やアドバイスを行う。
- ⚠ ジャーナルの提出など、少なくとも月に 1 回はコアタイムを活用すること
- ⚠ コアタイムの実施日時は、教員から指示、または教員と調整の上決定します

中間ふりかえり(授業1回分)

- ① 目の前の活動や個別の課題にのみ集中してしまい、小さな活動を一旦休止し、前半の活動を振り返ることで目標をもって活動に臨んでいることを再確認する。
- ② 受講生が活動中に直面した問題や悩みを共有する機会をもつことで、「学び」を深める。

持参物: ジャーナル

事後学習 I・II (授業2回分)

- ① 活動中の問題や悩み、感動や喜びを「学び」と「感情」の両面で整理する
- ② 自らの活動を評価する(事前学習Ⅲで設定した 2 つの目標を達成できたか、地域が抱える課題解決の一助となり得たか等)
- ③ プログラムを通じて学んだことを今後はどうつなげていくのかを検討する
- ④ 「活動報告会」に備えて発表準備を行う



持参物: ジャーナル

活動報告会(授業2回分)

- ① ボランティア活動は、地域の課題解決の一助となり得たか(ボランティア活動によって地域は活性化したと言えるのか、活動は地域にどのような影響を与えたのか)
- ② 事前学習Ⅲで設定した「プログラムの目標(プログラム毎に受講生全員で共有)」と「自身の目標(受講生各人が自らの専門と関連させて個別に設定)」を活動によりどのように達成したか
- ③ プログラムを通して、受講生自身はなにを「学び」、どのように「成長」したのか
- ④ 受講の経験やそこから得た「学び」を今度どのように活かすのか



場所: 大阪いばらきキャンパス(3キャンパス合同で開催します)

発表: 20 分(質疑応答含む)/1 プロジェクト ※発表準備はプロジェクト全員で行う。

評価対象物(レポートなど)提出

2. 学研災付帯賠償責任保険について

「シチズンシップ・スタディーズⅠ」の選考を通過し受講が決定した学生は全て、公益財団法人 日本国際教育支援協会の「学研災付帯賠償責任保険」に加入します。手続はサービスラーニングセンターで行います。

「学研災付帯賠償責任保険」についての詳細は、パンフレットまたは下記 URL をご参照ください。

<http://www.jees.or.jp/gakkensai/opt-baisho.htm>



3. 評価について

「シチズンシップ・スタディーズⅠ」は P/F(合格/不合格)評価です。評価は下記の要件、それぞれの内容をもとに行います。

- ① 原則、事前学習Ⅰ～Ⅲ、中間振り返り、事後学習Ⅰ・Ⅱ、活動報告会の**すべてに出席**していること
- ② 「シチズンシップ・スタディーズⅠ」プロジェクトのボランティア活動(オリエンテーション含む)を
合計 42 時間以上行なっていること
- ③ 定められた**期限までに評価対象物(レポートなど)を提出**すること

⚠ (諸注意)

所属学部や回生によって、開講していない場合があります。詳しくは、P11を参照してください。

事前学習Ⅰ～Ⅲ、中間振り返り、事後学習Ⅰ・Ⅱ、活動報告会の欠席は、原則認められません。ただし、やむを得ない理由でこれらを欠席した場合は、受講継続を認められることがあります。事前の届出を原則としますが、事後となった場合は、当該の授業日を含む 2 日以内とします。理由によっては、証明書の提出を求める場合があります。



4. 受講の中止について

受講生は受講開始後、以下の場合には、受講を中止することができます。

- ① 受講を継続することが困難になった場合
- ② 教育的配慮により、担当教員等が受講継続を困難と判断した場合

受講中止を希望する場合、担当教員に相談の上、「受講中止届」をサービスラーニングセンターに提出してください。なお、受講中止届を提出しても、受講登録の取り消し(受講辞退)にはなりません。受講許可後、評価の要件を満たさずに受講中止届を提出した場合、F 評価となります。

5. 大学での授業スケジュール

<衣笠>

GA クラス(山口先生)

内容	月日	曜日	時限	教室
受講前ガイダンス	4月9日	火	5	GJ307
事前学習Ⅰ	5月7日	火	5	GJ307
事前学習Ⅱ	5月14日	火	5	GJ307
事前学習Ⅲ	6月11日	火	5	GJ307
中間振り返り	8月22日	木	5	GJ307
事後学習Ⅰ	11月5日	火	5	GJ307
事後学習Ⅱ	11月19日	火	5	GJ307
活動報告会	12月7日	土	13:00～	OIC B棟カンファレンスホール

GB クラス(秋吉先生)

内容	月日	曜日	時限	教室
受講前ガイダンス	4月9日	火	4	MG003
事前学習Ⅰ	5月7日	火	4	MG003
事前学習Ⅱ	5月14日	火	4	MG003
事前学習Ⅲ	6月11日	火	4	MG003
中間振り返り	8月22日	木	5	GJ310
事後学習Ⅰ	11月5日	火	4	MG003
事後学習Ⅱ	11月19日	火	4	MG003
活動報告会	12月7日	土	13:00～	OIC B棟カンファレンスホール

<BKC>

G1クラス(宮下先生)

内容	月日	曜日	時限	教室
受講前ガイダンス	4月9日	火	5	A204
事前学習Ⅰ	5月7日	火	5	A204
事前学習Ⅱ	5月14日	火	5	A204
事前学習Ⅲ	6月11日	火	5	A204
中間振り返り	8月22日	木	3	A204
事後学習Ⅰ	11月5日	火	5	A202
事後学習Ⅱ	11月19日	火	5	A202
活動報告会	12月7日	土	13:00～	OIC B棟カンファレンスホール

<O I C>

GVクラス(秋吉先生)

内容	月日	曜日	時限	教室
受講前ガイダンス	4月10日	水	4	AC341
事前学習Ⅰ	5月8日	水	4	AC341
事前学習Ⅱ	5月15日	水	4	AC341
事前学習Ⅲ	6月12日	水	4	AC341
中間振り返り	8月22日	木	3	AC341
事後学習Ⅰ	11月6日	水	4	AC341
事後学習Ⅱ	11月20日	水	4	AC341
活動報告会	12月7日	土	13:00～	OIC B棟カンファレンスホール

<3 キャンパス合同>

GSクラス(秋吉先生)

内容	月日	曜日	時限	教室
受講前ガイダンス	4月14日	日	4・5	衣笠 GJ303
事前学習Ⅰ	6月1日	土	4	OIC AN327 *5限コアタイム
事前学習Ⅱ	6月22日	土	4	OIC B275,B276
事前学習Ⅲ	6月22日	土	5	OIC B275,B276
中間振り返り	8月23日	金	4	OIC AN327 *8/24 午前まで合宿
事後学習Ⅰ	11月2日	土	1	OIC AN327 *2限コアタイム
事後学習Ⅱ	11月23日	土	1	OIC AN327 *2限コアタイム
活動報告会	12月7日	土	13:00～	OIC B棟カンファレンスホール

7月6日(土)6限
渡航前オリエンテーション OIC B275

10月12日(土)5限
コアタイム OIC AC342

GTクラス(山口先生)

内容	月日	曜日	時限	教室
受講前ガイダンス	4月14日	日	4	衣笠 GJ304
事前学習Ⅰ	5月12日	日	4	OIC AN316
事前学習Ⅱ	5月12日	日	5	OIC AN316
事前学習Ⅲ	6月1日	土	4	OIC AN316
中間振り返り	8月22日	木	3	OIC AN316
事後学習Ⅰ	11月16日	土	3	OIC AN327
事後学習Ⅱ	11月16日	土	4	OIC AN327
活動報告会	12月7日	土	13:00～	OIC B棟カンファレンスホール

6. 教員による指導・アドバイス(コアタイム)、受講中の諸相談について

担当教員による指導・アドバイスをうけるため、また学びを深めるため積極的にコアタイムを活用してください。コアタイムは、教員からの指示、または教員と受講生が相談の上、日時、場所を決定しますが、基本となる時間、教室は以下の通りです。

<衣笠>

【GAクラス(山口先生)】 時間:火曜 5 限 教室:GJ307(開講期間中)

【GBクラス(秋吉先生)】 時間:火曜 4 限 教室:MG003(開講期間中)

<BKC>

【G1クラス(宮下先生)】 時限:火曜 5 限 教室:A204(前期)、A202(後期)(開講期間中)

<OIC>

【GVクラス(秋吉先生)】 時限:水曜 4 限 教室:AC341(開講期間中)

<3 キャンパス合同>

【GSクラス(秋吉先生)】 P27 参照

【GTクラス(山口先生)】 P29 参照

活動を進めるにあたり、活動先との関係作りや、心構え、活動に必要な備品などの点でアドバイスが必要なときは、担当教員もしくはサービスラーニングセンター窓口まで相談してください。



7. 学部別単位授与について

「シチズンシップ・スタディーズⅠ」の単位授与は、所属学部、入学年度によって異なります。

・「シチズンシップ・スタディーズⅠ」【2012年度以降入学生】

学部	入学年度	単位	科目名	単位授与区分	要卒	年間受講登録 上限単位
法学部	2012～2015年度入学生	2	シチズンシップ・スタディーズⅠ	教養科目B群	要卒	含まれる
	2016年度以降入学生	2	シチズンシップ・スタディーズⅠ	教養科目C群	要卒	含まれる
経済学部	2012～2016年度入学生	2	シチズンシップ・スタディーズⅠ	自由科目	要卒としない	含まれない
	2017年度以降入学生	2	シチズンシップ・スタディーズⅠ	教養科目C群	要卒	含まれる
経営学部	2012年度以降入学生	2	シチズンシップ・スタディーズⅠ	教養科目C群	要卒	含まれる
産業社会学部	2012年度以降入学生	2	シチズンシップ・スタディーズⅠ	教養科目C群	要卒	含まれる
国際関係学部	2012年度以降入学生	2	シチズンシップ・スタディーズⅠ	基礎科目	要卒	含まれる
政策科学部	2012～2017年度入学生	開講しない				
	2018年度以降入学生	2	シチズンシップ・スタディーズⅠ	ヴィジョン展開科目	要卒	含まれる
文学部	2012年度以降入学生	2	シチズンシップ・スタディーズⅠ	教養科目C群	要卒	含まれる
映像学部	2012年度以降入学生	2	シチズンシップ・スタディーズⅠ	教養科目C群	要卒	含まれる
理工学部	2012年度以降入学生	2	シチズンシップ・スタディーズⅠ	教養科目C群	要卒	含まれる
情報理工学部	2012年度以降入学生	2	シチズンシップ・スタディーズⅠ	教養科目C群	要卒	含まれる
生命科学部	2012年度以降入学生	2	シチズンシップ・スタディーズⅠ	教養科目C群	要卒	含まれる
薬学部薬学科	2012年度以降入学生	2	シチズンシップ・スタディーズⅠ	教養科目C群	要卒	含まれない
薬学部創薬科学科	2015年度以降入学生	2	シチズンシップ・スタディーズⅠ	教養科目C群	要卒	含まれる
スポーツ健康科学部	開講しない					
食マネジメント学部	2018年度以降入学生	2	シチズンシップ・スタディーズⅠ	教養科目C群	要卒	含まれる
総合心理学部	2016年度以降入学生	2	シチズンシップ・スタディーズⅠ	教養科目C群	要卒	含まれる

8. FAQ（よくある質問）

Q1. 2つのプロジェクトにエントリーできますか？

A1. いいえ。1人の受講生がエントリーできるのは、1つのプロジェクトのみです。

よって、1人の受講生が2つ以上のプロジェクトを受講することはできません。慎重に選んで、エントリーしましょう。

Q2. 事前学習や事後学習を受けずに、ボランティア活動にだけ参加できますか？

A2. いいえ。「シチズンシップ・スタディーズⅠ」は、ボランティア活動も含めて事前学習Ⅰから活動報告会までがひとつのセットになった授業なので、どこか一部分だけに参加することはできません。

しかし、正課授業としての「シチズンシップ・スタディーズⅠ」以外にも、サービスラーニングセンターでは多くのボランティア情報を提供しています。「シチズンシップ・スタディーズⅠ」の受講に関わらず、ぜひ参照してみてください。

Q3. お金がかかりますか？

A3. プロジェクトによって異なります。

受講料などはありませんが、ボランティア活動先への交通費や終日活動する場合の昼食代などがかかる場合があります。また、宿泊を伴うプロジェクトでは、別途宿泊代と食費がかかります。

Q4. ボランティア活動の経験がなくても、受講できますか？

A4. はい。

ボランティア活動の前後に事前学習や事後学習（ふりかえり）があるので、ボランティア活動未経験の受講生も安心して受講できます。活動中に不安やトラブルが生じた場合は、いつでも担当教員またはサービスラーニングセンターへ相談してください。

Q5. 単位授与されますか？

A5. 必要な要件を満たすことで単位が授与されます。

ただし、授与分野等は学部によって異なります。（一部、開講しない学部・回生もあります）



Q6. 他の授業と重なった場合、「授業配慮願い」や「公欠届」などは出ますか？

A6. いいえ。ボランティア活動の実習日と他の授業が重なった場合でも、サービスラーニングセンターから「授業配慮願い」などは出せません。

重複しないよう注意してスケジュールを確認のうえ応募してください。万が一重なってしまった場合は、受講生各自の責任において対応してください。なお、「他の授業の受講」を理由に「シチズンシップ・スタディーズⅠ」を欠席することも認められません。

Q7. 学研災付帯賠償責任保険には必ず加入するのですか？

A7. はい。ただし、個人による手続は不要です。

この保険は、正課活動中の損害（ケガや事故など）を補償するための保険で、受講生には全員加入を義務付けています。加入手続きはサービスラーニングセンターが全て行なっております（P7参照）。

9. 活動する上で心がけたいこと

①気持ちのよいあいさつをしましょう！

挨拶はすべての基本です。気持ちのよい挨拶はコミュニケーションの大切な第一歩です。

②言葉づかいに気をつけましょう！

受入先の方は地域課題を教えてくれる目上の社会人です。対等な「友達」ではありません。尊敬と感謝の気持ちを持って言葉遣いに気をつけましょう。

③約束・ルールを守りましょう！

ボランティア活動は人と人との信頼によって成り立ちます。約束やルールを守ることは基本中の基本です。自分の勝手な都合で約束やルールを違えることは、受入先の迷惑になるだけでなく、信頼関係を壊します。特に、無断での遅刻や欠席は、受入先に多大な迷惑をかけてしまいますので「厳禁」です。

④秘密は守りましょう！

活動中に知った情報の中には、個人の秘密にしておきたい情報もあることでしょう。

こうした情報は絶対に口外してはいけません。秘密は守る！これも信頼を築く基本です。

各種 SNS (Twitter、Facebook、Instagram など) の利用について

■活動に関する写真や情報の掲載について

活動に関わる写真や情報を無断で掲載することで、トラブルになることがあります。

掲載する場合は、インターンシップ先にきちんと許可を取りましょう。

■SNS 上の情報は、匿名であっても責任は伴います

SNS に一度 発信した内容は完全には削除することができず、世界中に広まります。

匿名であっても IP アドレスや位置情報などから個人を特定されてしまいます。

一時の感情にまかせた悪口などの書き込みは絶対にしてはいけません。



⑤服装や持ち物は TPO をわきまえましょう！

活動先の仕事の中には、特に服装や持ち物について注意を促されることがあります。

そのことには全て理由があります。自分の意見やポリシーよりも、この注意を守ることが優先してください。

⑥わからないことは遠慮なく質問しましょう！

わからないことがあるのは、当たり前です。わからないことがあったら、授業を担当する教員や、受入先の担当者、サービスラーニングセンターのスタッフに遠慮なく聞きましょう。

⑦自主性を持って活動しましょう！

活動中、何をしたいかわからないこともあります。そのときは、「言われるまで何もしない」のではなく「何かお手伝いすることはありますか？」と聞きましょう。自分から動く姿勢を持つことで、より成長を実感できるでしょう。

⑧周りの人との関係を大切にしましょう！

ボランティア活動は、周りの人の気持ちを考え、相手の立場に立った行動をすることがとても大切です。みんなが気持ちよく活動できるように心がけましょう。



プロジェクト名:

時代祭応援プロジェクト

受入団体名: 平安講社第八社 時代祭・維新勤王隊列

[活動先]・京都市中京区「平安講社第八社」

募集人数

8名程度

<受入団体からのメッセージ>

京都三大祭のひとつ、時代祭は平安神宮の秋大祭であるとともに「京都の誕生日」を祝う市民のお祭でもあります。時代祭の運営は市民団体である「平安講社」が担っており、京都市内を「社」と呼ばれる11地域に分け、社ごとに担当する時代を決めています。当プロジェクトを受け入れる第八社は中京区内にあり、時代祭の先頭の維新勤王隊列を担当しています。少子高齢化が進む昨今、祭の準備や運営は年々難しくなっています。そこで、学生の皆さんに加わっていただき、力をお借りしたいと考えています。

ところで、時代祭の役員は、地域安全や福祉など地域活動の役員も兼職しています。当プロジェクトではこれらの地域活動を見学・体験し、各自が地域の実情や課題を理解したうえで時代祭に関わっていただきます。これにより、単なるお祭りのお手伝いではなく、地域構成員としての視点を持った参加者となり、時代祭や地域社会をより深く考察できると考えます。参加に際しては

「地域の人々と対話する」ことを求めます。慣れるまでは難しいかもしれませんが、まずは素朴な疑問をぶつけることでコミュニケーションを図ってください。

<活動期間: 2019年5月26日～2019年11月3日 活動日数: 15日程度>

<主な実習場所>

平安神宮(地下鉄東山駅下車徒歩10分) 西ノ京中学(地下鉄二条駅下車徒歩7分)
八社会議室(地下鉄 西大路御池駅下車徒歩3分)

<日常的なコミュニケーションの手段>

(○)電子メール ()Facebook (○)LINE (○)電話

<活動する現場で学生が求められる理由>

役員をはじめ地域住民の高齢化が進み、衣装の管理や演奏の練習を手伝う要員が欲しい

<活動パターン>

()毎週1日程度・定例

(○)月1～2回・不定期

()主に夏期休暇・集中

()その他

→具体的には…

「活動の流れ」参照

<活動のテーマと主な内容>

時代祭の維持・存続のため「若い力」を求める

時代祭は10月に行われる平安神宮の秋大祭です。約2000人の京都市民が平安から明治までの時代衣装姿で都大路を歩きます。本プロジェクト受け入れ団体である第八社は「明治時代・維新勤王隊列」を担当します。しかし、地域から選出される役員の年齢層が高く、衣装管理や練習準備などの各種作業が負担となっています。ぜひ皆さんのお力をお貸しください。



維新勤王隊列は約150人の隊列です。
(女子は維新志士列などに参加)



8月には平安神宮収蔵庫から維新勤王隊衣装を出し「虫干し」をします。



時代祭で使うワラジの加工作業をしながら地域の役員と交流しています。

<期待できる学び>

①京都の歴史・文化を深く学ぶことができる

②地域住民との協働作業を通じて、地域社会の現状や課題を知ることができる

③異なる年齢層との出会いや作業を通じて、対人関係力を鍛えることができる

<活動の流れ>

日時	実習場所	活動内容
5月26日(日) 午前10時	平安神宮	リエンション(境内案内、正式参拝、時代祭説明、地域での対話や取材の方法など)⇒終了後に懇親会
6月・7月・8月の活動		時代祭行事が少ないこの時期は、地域で行われている様々な活動を見学して、時代祭を底支える「地域」を知っていただきます。 地域を住みやすくするため、個人・団体が色々な地域活動を行っています。これらを知ったうえで時代祭に関わると、時代祭に対する理解が深まります。 小学校児童の登下校時の見守り活動、消防団の夜回り、自主防災会の研修会、社会福祉協議会の行事、「中京マチビトCafé」(中京区役所)などをご紹介しますので積極的に参加し、運営や参加者の声に触れて地域社会の現場を体感してください。活動には八社役員が同行しますので、ぜひ複数回参加してください。
8月4日(日) 午前8時	平安神宮収蔵庫	維新勤王隊衣装虫干し
9月上旬～中旬	各学区	地域への挨拶、寄付金集め
9月20日(金) 午後6時	西ノ京中学体育館	入隊式(神事)と参加者一同の顔合わせ
9月21日～10月24日 午後7時～9時	西ノ京中学体育館	楽器演奏、隊列行進の練習、ワラジ製作 (各回2～3名の当番制で準備と受付補助など)
10月14日(月・祝) 午前8時	平安神宮収蔵庫	衣装渡し(各学区への衣装仕分けなど)
10月15日(火) 午後1時	平安神宮本殿前	宣状式(神事)
10月24日(木) 午後6時	西ノ京中学体育館	最終練習後に行進練習、衣装着付け説明
10月25日(金) 午後6時	朱雀公園	隊士集合場所の設営、進行路へのビラ
10月25日(金) 午後7時	西ノ京中学	前日準備
10月26日(土) 午前7時～午後9時	集合場所～御所～神宮～西ノ京中学～直会(なおりい)	時代祭当日(雨天時は翌27日) 午後6時から直会朝の集合場所 男子:西ノ京中学 女子:平安神宮
11月3日(日) 午前8時	平安神宮収蔵庫	衣装戻し

衣笠

<受講生に求めること>

費用	活動場所までの交通費
参加の姿勢	当プロジェクトでは、学内よりも学外での活動を重視します。学外では新鮮な経験が数多くできますが、同時に煩わしいことや気を遣う場面も少なくありません。仲間と助け合うチームワークも必要です。そこで、受講生には以下の要件を求めます。 ①行動力...受講期間中は平安神宮や祭を担う地域、場合によっては他の祭礼の関係先などに出向きます。そして作業を手伝ったり、地域の人々と接したりする機会が多々あります。体を動かすことをいとわない学生を求めます。 ②自主性...活動の性質上、一切において受講生側が主体的に動く必要があります。何かを「してもらう」「教えてもらう」という姿勢では何も学べません。何かを「する」「学びとる」という意識を常に忘れないでください。 ③工夫する力...活動を面白くするのもつまらなくするのも、すべては受講生次第です。面白くないと感じたら、自分たちが工夫して面白くしてください。退屈だと思ったら、斬新なアイデアを提案してください。 ④チャレンジ精神...学外に出ると、立場が異なる人々に出会い、想定外の出来事にも遭遇します。不安感が先立ち尻込みするか、それとも「当たって砕けろ!」と踏み出すか——ここが成長の分かれ目です。ダメでもともと、失敗するのが当たり前、そんな大らかでタフな人を求めます。 ⑤対人関係力...当プロジェクトでは、祭の関係者や地域住民と徹底的に対話をしてもらいます。しかも、皆さんがこれまで接したことがない、年代も立場も違う人たちばかりです。こうした対話を重ねる中でしか、地域の生の姿はつかめません。初対面でも臆せず話せる人、話好きな人は大歓迎です。今は口下手だけど、頑張って会話上手になりたいという人もOKです。
終了後の評価	学校、仕事、家族など、人には色々な所属や「顔」があります。その一つには是非「地域社会の構成員」も加えてください。そして、このプロジェクトを通して学んだ地域との付き合い方を今後どこかで実践していただければと思います。

<その他、プロジェクト実施にあたって期待すること(教職員も含めて)>

「学ぶために体験する」ことも必要ですが、本プロジェクトでは「体験の中から何かを発見して自分で学びとる」姿勢を大切にします。学内にとどまらず「とりあえず現場に出てみて、その意味が後日に分かる」を体験してください。また、教職員の皆さまも現場にお越しいただき、受入れ団体とは異なった視点での「気づきのポイント」をご教授いただけるとありがたいです。

プロジェクト名:

里山×若者プロジェクト

募集人数

10名

受入団体名:立命館大学サービスラーニングセンター

[活動先]・京都市北区大森中町「フロリ田」・福井県坂井市三国「ラーバンの森」
・大阪府茨木市千提寺「風と土の杜」

<受入団体からのメッセージ>

日々を過ごすキャンパスのすぐ近くに、豊かな自然に恵まれる一方、人口減少が進展する田舎があります。そんな身近な田舎・大森中町にある都市農村交流拠点「フロリ田」で、農作業を通じた中山間地での暮らしを体験し、地域についての学びと自分自身への理解を深めることを期待しています。農作業に従事する過程で、市街地から通うフロリ田の運営者達や大森中町の住民と交流を重ね、多様な価値観を感じてください！そのほか、福井県坂井市にある都市農村交流拠点「ラーバンの森」やいばらきキャンパス近くの中山間地での都市農村交流拠点「風と土の杜」での活動を通して、里山への理解を広げましょう。

<活動期間:2019年5月ごろ～2019年11月ごろ 活動日数:15日程度>

<主な実習場所>

北区大森中町(衣笠キャンパスからJRバスで40分、バス停から5km)

<日常的なコミュニケーションの手段>

(○)電子メール ()Facebook ()LINE (○)電話

<活動する現場で学生が求められる理由>

- ・中山間地の魅力(課題)について、住民とは異なるよそ者の視点で価値を捉え直し、広く伝えてほしい。
- ・毎日口にしている食べ物がどのように作られるのか、その生産過程に加わることで体感してほしい。

<活動パターン>

- ()毎週1日程度・定例
- (○)月1～2回・不定期
- ()主に夏期休暇・集中
- ()その他

→具体的には…
季節に応じた農作業の実施や、地域活動への参加

<活動のテーマと主な内容>

里山の暮らしから自分の未来を再考する

人口減少により使われなくなった家や田んぼ・畑を借りて、市街地で生活しながら農に携わる市民と共に、農作業に従事する過程で、農作物の生産方法のみならず町民との付き合い方や自然との関わり方を、体感できます。この経験を通して、これからの生き方の選択肢を増やしてみませんか？



<期待できる学び>

- 里山に集う人々の実情や人柄に触れながら、彼らとの調整力を磨くことができる。
- 多様な価値観に触れることで、自分自身の考え方の幅を広げることができる。
- 持続可能な社会のあり方、あるいは自分の生き方(ライフデザイン)について新たな視点を得ることができる。
- 地域の魅力や課題を発見できるようになる。

<活動の流れ>



<活動の流れ>

日時	実習場所	活動内容
5月連休後 土or日曜日	大森中町フロリ田	田んぼでの田植え
6月～7月	大森中町フロリ田	月1, 2回の農作業
7月	大森中町 福井ラーバンの森	町内清掃への参加 ブルーベリー畑での農作業・食品加工
8月or9月	大森中町フロリ田	合宿 秋野菜づくりのための畑準備
8月～11月	大森中町フロリ田	月1, 2回の農作業
9月or10月	大森中町フロリ田 茨木 風と土の杜	稲刈り イベント参画
11月中旬	大森中町フロリ田	脱穀（メンバー以外の参加者を巻き込みに期待）
11月下旬	大森中町フロリ田	お礼の鍋会（フロリ田運営者や地域住民へ活動報告）
その他 （随時）	小野郷ほか	大森中町に関わるイベントなどへの参加（夏祭り、運動会など）

<受講生に求めること>

衣笠

費用	○活動地までの交通費(一部助成あり) 大森中町(JRバス利用／片道780円・ バス停からフロリ田までのタクシー片道1200円程度) ○合宿費用(一部助成あり) 宿泊費(フロリ田1500円＋食費)
参加の姿勢	・自然、作業、人。多様なことに興味を持つ。 ・農作業や交流など、他人事ではなく自分ごととして主体的に取り組む。
終了後の評価	フロリ田運営者や大森中町住民から、活動内容や活動中の態度に対して評価いただく

<その他、プロジェクト実施にあたって期待すること(教職員も含めて)>

活動場所(フロリ田) 運営者より

米づくりや畑仕事、家の改修など“ものをつくる”ことの面白さと大変さを体験してください。自分の手で生み出すこと、他者と協力し生まれることが、皆さんのこれからの活動に活かされることを期待しています。

また、地域で活動するよそ者という立場から、この地域に何があるのか、何が必要か、何ができるのか、まちづくり的思考を持って地域に関わってもらいたいです。

メモ



プロジェクト名:

草津街あかり・華あかり・夢あかりプロジェクト

受入団体名: 草津市 商工観光労政課

[活動先]・草津市内商店街・草津川跡地公園

募集人数

10名

B
K
C

<受入団体からのメッセージ>

「草津街あかり・華あかり・夢あかり」(以下街あかり)は、2日間で約3万人が来場する「街歩き」イベントです。街あかりのコンセプトは「草津の魅力再発見」。普段は何げなく通り過ぎている道をあかりで装飾し、楽しみながら街なかを散策し草津の街にある魅力的な資源(商店・寺・神社・街並・飲食店等)を市民の人に知ってもらうことが目的です。

実行委員には地域の人が集まります。みなさんには「しなければならない決まった何か」はありません。

みなさんの目標は「草津のファンを増やす」こと。そのために草津がどんな街か知ってみなさんでアイデアを出し合い、地域と力を合わせて準備・運営をしていただきたいと思います。

地域の一員として活動することで、みなさんにとって草津が“ただ住んでいるだけ以上のまち”になることを期待します。

<活動期間: 2019年5月頃～2019年11月上旬>

<主な実習場所>

草津市役所・くさつ夢本陣(最寄駅・バス停など: JR草津駅)

<日常的なコミュニケーションの手段>

(○)電子メール ()Facebook (○)LINE (○)電話

<活動する現場で学生が求められる理由>

地元企業や町内会長などを中心に地域の方によって構成される実行委員会が中心に実施されている催事です。

草津の街には、古くから発展したエリアと新規開発で成長したエリアがありますが、新しいエリアで活動する皆さんが古くからある「草津」へその一員として活動する事で、実行委員会に新しい風を吹き込み、「地域」×「行政」×「学生」で地域活性化を目指します。

<活動パターン>

() 毎週1日程度・定例

(○) 月1～2回・不定期

() 主に夏期休暇・集中

() その他

→具体的には…

街あかり当日が近づいてくると、直前の準備など活動頻度が高くなってきます。

<活動のテーマと主な内容>

未来のためにまちづくりの手法を体感する

昨年の活動内容

商店街インタビュー

街あかりの企画を前に商店街の方々のところへ出向き、現在の商店街の課題や街あかりへの思いなどをインタビューしました。

クイズラリー

街あかりの恒例となっている人気イベントです。街なかの複数の箇所にクイズを設置し、回答者には学生手作りのキャンドルをプレゼントしました。当日の運営、景品のキャンドル作り、クイズ設置箇所の検討、設置場所の関係者との交渉、クイズラリーの台紙作成・印刷の発注などを行いました。

スカイランタン

来場者の方に商店街への思いを書いていた短冊を、LED電球を入れた風船に添えて夜空に打ち上げました。より明るいランタンを制作しようと何度も実験を繰り返して準備に取り組み、当日は大盛況となりました。

その他

街あかり実行委員会へ出席してもらい、学生の行っている企画内容、進捗状況を説明してもらいました。



キャンドル制作中



クイズラリーは大盛況

<期待できる学び>

・「まちづくりにおける担い手の役割を体感する」

準備・企画期間の過程において、「地域活性化」や「まちづくり」に携わり、現地・現場での進め方を体感できます。

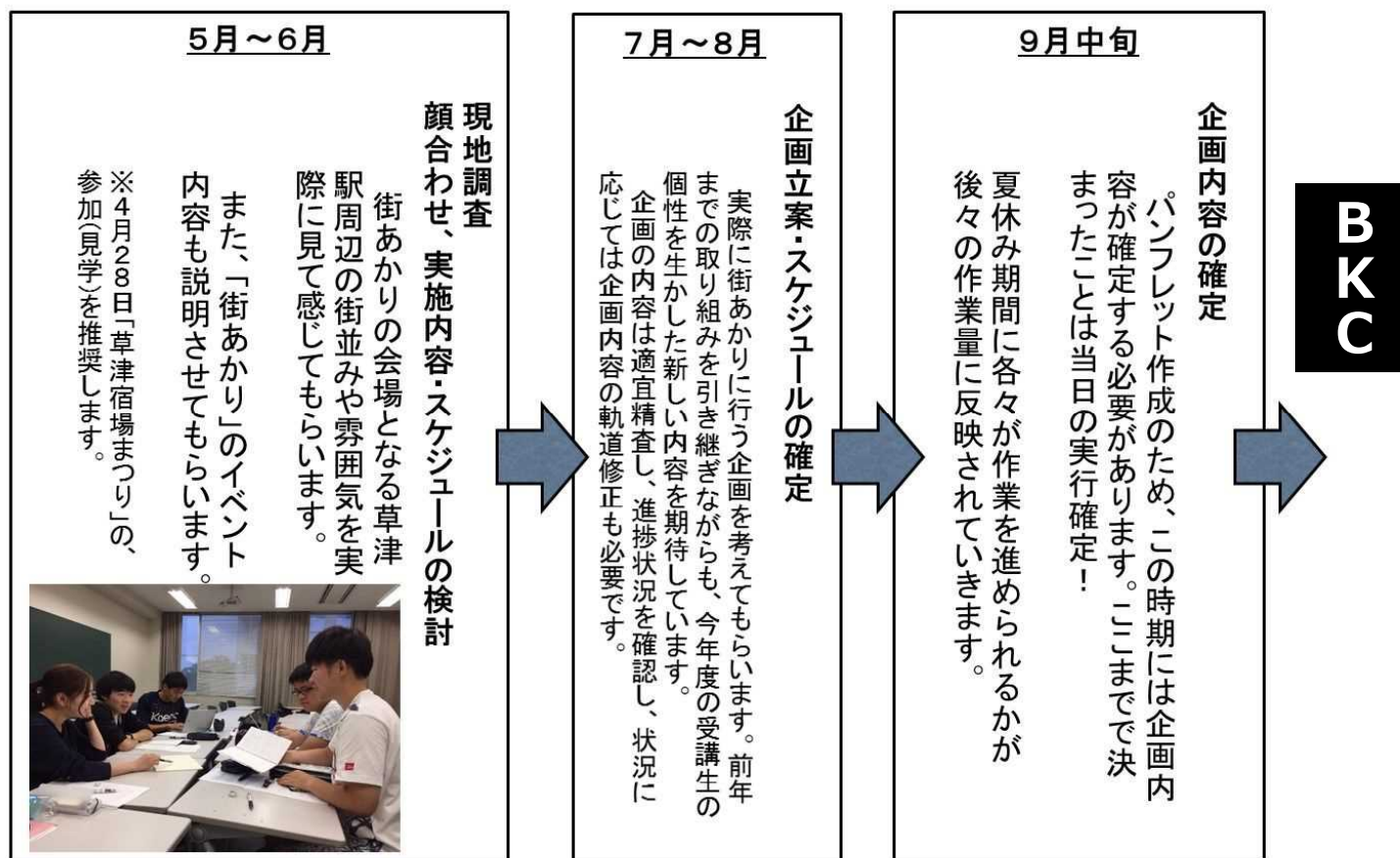
・「社会人との活動」

実行委員は地元企業の社長や町内会長であり、市職員だけでなく商工会議所の方を含めて、サークル等普段の学校生活の範囲を超えた人とのつながりや社会の通例を体感できます。地元の方へのヒアリングなども行います。

・「組織として行動する」

まちあかりつつが機能した組織となるよう、考えて行動することで自らの行動や仲間への働きかけ方を考えるきっかけとなります。

<活動の流れ>



<活動の流れ>



<受講生に求めること>

費用	活動場所までの交通費(主にJR草津駅や草津市役所周辺)
参加の姿勢	「参加する事」 組織に名を連ねる事、現場に居合わせるだけで参加しているとは言えません。組織の中で役割を果たし目標に向けて必要な事を考え遂行する「自主性」や「遂行力」を求めます。活動では、経験のない初めての課題がたくさんありますが、挑戦する気持ちで積極的な参加を求めます。 また、他の学業などにより時間の確保が難しいことは理解しますが、仲間同士が直接顔を合わせ、話し合い、自らの手を動かすことを重視します。
終了後の評価	上記の姿勢をもとに、出席状況を考慮して判断します。

<その他、プロジェクト実施にあたって期待すること(教職員も含めて)>

・「草津の街を知る事」 街あかりを通して、草津を知り、知り合った人に自分の言葉で紹介できるようになること。 街あかりをきっかけに多数ある市内の活動がある事をまず知ること。 ・「人とのつながりをつかむこと」 SNSや電話だけでは築けない信頼関係や人とのつながりを、打ち合わせや製作などの作業を通して生み出し、街あかりの成功、自身の成長へつなげること。 ・「企画実行力」 街あかりを舞台に学生の皆さんが自ら考えた企画案を、自らでスケジュール管理し、自らの手で試行錯誤しながら形にしていく過程を学ぶことを求めます。 その中でSLCをはじめとする関係者の皆さまには、受講生・受け入れ先との連絡を密にし、彼らの進捗や課題に対してサポートや助言をいただければと思いますので、ご協力お願いします。
--

メモ

A large rectangular area defined by a dashed gray border, intended for a memo or drawing. The border is composed of small, evenly spaced gray squares.

プロジェクト名:

茨木火起こしプロジェクトー持続可能な地域づくりー

募集人数

10名

受入団体名: 茨木ほくちの会 (茨木市北部地域協議会)

[活動先]・茨木市北部地域連絡協議会 活動実行チーム

<受入団体からのメッセージ>

茨木北部地域は自然豊かな農村集落で高齢化や担い手不足による休耕地、里山の荒廃・等、様々な課題を抱えています。しかし、課題以上に可能性に満ちています。私たちは食の循環や再生可能エネルギーの導入、コミュニティづくり等を通じて、地給地足を行い、「持続可能な地域」をつくっていきたくと考えています。「みんな笑ってイケるとこ」、山の住民だけでなく、自然も未来に生きる人も、みんな笑って生ける(活ける・逝ける・行ける)ように多様な価値観や背景の人たちが集まり、暮らしと事業を創っていくプロセスは、想像よりもずっと面白いです。地域と社会を元気にし、人の心に火を灯す、火起こしのような試行錯誤の活動にぜひジョインしてください!

<活動期間: 2019年5月中旬～2019年11月下旬 活動日数: 14日程度>

<主な実習場所>

茨木市千提寺周辺 (最寄駅・バス停など: 阪急バス千提寺口)

<日常的なコミュニケーションの手段>

(○)電子メール (○)Facebook (○)LINE ()電話

<活動する現場で学生が求められる理由>

柔軟な発想と、行動力に期待しています。
空き家だった茅葺屋根の古民家も蘇らせていきます
ので、体力も重要です!

<活動パターン>

- () 毎週1日程度・定例
 - (○) 月1～2回・不定期
 - () 主に夏期休暇・集中
 - () その他
- 具体的には…

<活動のテーマと主な内容>

山とまちをつなぐコミュニティ拠点となる古民家を再生する

茨木ほくちの会は、生活や事業の中で、食とエネルギーの循環、コミュニティづくりを行い、持続可能で豊かな地域をつくっていきたくと考えています。
私たちはこれまでずっと、どんなポリシーを大切に生きていきたいのか、考えながら活動してきました。その試行錯誤のプロセスは、地域の人だけでなく、もっと人と深くつながりたい、自然に寄り添った社会にしたい、食と命を大切にしたい・と、同じように試行錯誤する人たちとの関係を築いてくれました。その関係はどんどん深まり、「もっと日常的に、自由に、一緒に」この地で活動していきたいという双方の想いを強くさせました。そして、この春、茨木市北部地域の中心部・千提寺に、茅葺屋根の古民家を借りました。
どのように活用していくのか、どんな空間にするのかみんなで考えるところからのスタートです。前の住人が残した物の整理や片付け・掃除、庭の草刈り等、DIYの過程に入る前段階からです。設計士、デザイナー、料理人、教育者、こどもたち・多様な人たちとみんなで頭と体をフル回転させ、創り上げていきます。学生の皆さんには、活用方法のアイデア出しから、古民家の片付け、交流イベントの企画・実施まで、古民家再生メンバーの一員として関わってもらえると嬉しいです。

<期待できる学び>

- ・人は自然に生かされていること、人は助け合って生きていることを身体と心で理解できる。
- ・SDGsを深く理解し、目標達成に向けた行動に踏み出すことができる。
- ・私たちの命を支える「食」のリアルを知ることができる。
- ・多様な価値観に触れ、自分と社会の違う側面を見ることができる。

この授業を受講した先輩の中には、ほくちの会メンバーとともに、活動されている方もおられます。持続可能な社会をつくっていくために、国内外を旅し、視野を広げ、日々自分を進化させていく彼女から、私たちはたくさんのことを学んでいます。彼女の提案で、SDGsを体感するエコツアーを企画するなど、私たちの活動にも広がりが生まれています。私たちも皆さんから、学びたいと思っています。一緒に学びましょう!

<活動の流れ>

5月 **【私たちを取り巻く環境を知ろう！】**
10年後の社会を予測する意見交換会。茨木ほくちの会の目指す姿を共有。
国内外の先進事例勉強会・古民家探訪。

6月-7月 **【茨木ほくちを知ろう！】**
ほくちの会メンバーの仕事・生活を体験。
古民家の片付け・掃除、古民家でしたいことを共有。



8月-11月 **【拠点を活用してみよう！】**
風の杜でのイベントを企画・実施。
 (例) 竹を使ってつくった水鉄砲で戦、テピの中で焚火
 ほくち産の農畜産物、ジビエを使ったBBQ、野外料理
 馬やヤギとのふれあい体験などをはじめとした子どもの自然体験
 古民家での交流イベントを企画・実施。

12月上旬 **【学びを次のアクションにつなげよう！】**
大学・ほくちの会で報告会を実施。



OIC

<受講生に求めること>

費用	交通費・食事代・宿泊費 ※過去受講した先輩は助成金の申請を行う等、自分たちで資金調達もされていました。
参加の姿勢	私たちにも答えはありません。日々トライ＆エラーを繰り返しています。 固定概念を捨てて、主体的に考え、一緒に行動していきましょう。
終了後の評価	評価は人が決めるものではなく、自分が決めるものだと思うので、 学び、変化したこと、今後のアクションを終了時教えてもらえると嬉しいです。

<その他、プロジェクト実施にあたって期待すること(教職員も含めて)>

【サービ斯拉ーニングセンターの皆様と秋吉先生へ】

今年は、「持続可能な社会を支える仲間」を学生に限らず、増やしていきたいと思っています。
皆様の取り組みやつながりを共有いただけると嬉しいです。
学生と一緒にほくちにも、ぜひお越しください。

プロジェクト名: **ネパール未来プロジェクト**
～フェアトレード・子どもの貧困から考える～

募集人数

10名

受入団体名: シャプラニール＝市民による海外協力の会

[活動先]・特定非営利活動法人 シャプラニール＝市民による海外協力の会
ネパール事務所

＜受入団体からのメッセージ＞

皆さんが買い物をする時一番気になるのは何ですか？値段？産地？それとも・・・？
何気なく手にとっている商品がどこから来たか、どんな人が作っているのかを考えることは、世界を変える一歩になります。作る人も、買う人も幸せになれるフェアトレードについて学びましょう。
実習ではネパールのフェアトレード商品の生産現場を訪問し、生産者と交流します。また、フェアトレードが解決しようとしている社会問題や構造についても理解を深めていきましょう。

＜活動期間: ネパール訪問 2019年9月13日(金)～20日(金) 活動日数: 7日程度＞

＜主な実習場所＞

立命館キャンパス周辺、ネパール(カトマンズ・パタン・ポカラ)

＜日常的なコミュニケーションの手段＞

(○)電子メール ()Facebook ()LINE ()電話

＜活動する現場で学生が求められる理由＞

ネパールのフェアトレード商品の主要購入国である日本の学生と交流することで、生産者は仕事へのモチベーションを高め、より良い商品を作ることにつながります。ネパールで見聞きし、感じたことを皆さんの友人や家族に伝えることが、フェアトレードの価値が日本社会に浸透する力となります。

＜活動パターン＞

- () 毎週1日程度・定例
 - () 月1～2回・不定期
 - (○) 主に夏期休暇・集中
 - () その他
- 具体的には…

＜活動のテーマと主な内容＞

フェアな社会を創るための一歩を学ぶ

最貧国ネパールの地方部では、現金収入が得られる仕事はわずかです。特に村の外にできることが難しい女性たちにとって、自宅でできる手工芸品づくりは現金を得られる大切な仕事です。定期的な収入が入ることによって、日に三度の食事ができるようになった、子どもたちを学校に通わせられるようになったなど、たくさんの生産者とその家族の生活を支えています。

このような「フェアトレード」の商品生産販売に取り組むネパールのNGO「WSDO」を訪問し、生産現場からフェアトレードの仕組みを学びます。手工芸品生産体験、生産者の自宅訪問などを通して、家事と両立を可能とする手工芸品生産の重要性を体感します。

「女性」が「身近な素材や技術」を使って「自宅で」できる仕事を創るフェアトレードの重要性を理解するためには、ネパールの社会背景の理解が欠かせません。小学校訪問や村歩きを通して、観光では見られないネパール社会を体感する機会を設けます。

ネパール実習中はもちろんのこと、実習で得た学びを深めながら、日本でできることを学生自らが考え、企画、実行してもらいます。

＜期待できる学び＞

生産者と交流し、生産体験をすることで、消費者である私たちの「買い物」という行動が、見えない存在であった生産者の生活に影響を与える可能性があるという事実を、実感を持って理解することができます。実習中で訪問を予定している小学校(またはNGO)では、ネパールに存在する差別や子どもの状況を実際に見て、貧困や格差が生み出される社会構造についての理解を深めます。

これらの経験を通して、日本で私たちがすべきこと、できることを考えるモチベーションにつなげ、実際にキャンパスもしくはその近郊で、解決に向けた行動をとることが期待できます。

<活動の流れ>

4/14(日)4,5限 受講前ガイダンス
 6/1(土)4限 事前学習Ⅰ,(ボラとは?)
 5限 コアタイム
 6/22(土)4,5限 事前学習Ⅱ,Ⅲ(興味関心,目標設定)
 7/6(土)6限 渡航前オリエンテーション「ネパールの文化や社会」について学ぶ
 夏休みのボラ活動準備【シャプラニールスタッフ参加】
 ↓
 8/23(金)4限 中間ふりかえり
 5,6限,宿泊
 8/24(土)1,2限 コアタイム実習準備
 ↓
 9月13日(金)～20日(金)(予定) ネパール実習:ボランティア活動&コアタイム
 (毎日のふりかえり)【シャプラ ネパール事務所スタッフ参画】
 ↓
 10/12(土)5限 コアタイム 実習ふりかえり&学祭 準備
 ↓
 11/2(土)1,2限 事後学習Ⅰ & コアタイム 学祭 準備
 ↓
 11月 学祭・Asia Week等での発信
 ↓
 11/23(土)1,2限 事後学習Ⅱ & コアタイム 報告会準備
 ↓
 12月7日(土) 報告会【シャプラストッフ/地域連絡会参加】

<受講生に求めること>

費用	<実習参加費(支払額予定)> 約25万円～28万円 <内訳(予定)>往復飛行機代15万円、現地交通費4.5万円、滞在費2.5万円、ビザ代1万円、海外旅行保険5千円、その他通訳・実習委託費等 数万円 など ※本プログラムは立命館大学海外留学チャレンジ奨学金の対象です。 ※金額は、概算です。様々な事情により変動の可能性があります。
参加の姿勢	訪問先の言葉を覚え、食事や文化を体験するような、他者に興味をもち積極的に理解しようとする姿勢を期待します。どうしても迷ったら「自分がされて嬉しいことは、相手にとっても嬉しいはず」と想像力を働かせましょう。
終了後の評価	ボランティア活動や学びの発信、現地実習への主体的な参加および実習グループ間の学びあいに対する姿勢を期待します。

3 キャンパス合同

<その他、プロジェクト実施にあたって期待すること(教職員も含めて)>

ネパールでの実習時に得た感動や学びを自己満足に終わらせらないためには、「日本の社会、私たちの暮らしとの重なりは何か」、「自分たちにできることは何か」と引き付けて考えること、そこから見えてきたことを実際の行動に落とし込む場を繰り返し設けることが大切です。そのためには「あれ?」「どうして?」という疑問や違和感をそのままにせず、立ち止まって考える癖をつけることが第一歩です。ネパール実習がその一歩を踏み出す機会になれば幸いです。

プロジェクト名:

減災×学びプロジェクト

募集人数

9～13名

受入団体名:立命館大学サービスラーニングセンター

[活動先]・神戸市灘区、東灘区、中央区(阪神・淡路大震災、1995年)
・新潟県小千谷市塩谷集落(新潟県中越地震、2004年)
・岩手県大船渡市、福島県楢葉町(東日本大震災、2011年)
・熊本県西原村(平成28年熊本地震、2016年)

<受入団体からのメッセージ>

「未災者」という言葉があります。日本で唯一の環境防災科がある兵庫県立舞子高校で用いられた概念で、未だ被災経験のない世代が防災について学ぶ大切さを確認することができます。このプロジェクトは2011年の東日本大震災の支援のために設置された「震災×学びプロジェクト」を母体に、2012年度から継続的に実施されています。未来の災害における被害を減らす「減災」のための実践の知を磨くため、過去の災害で被害を受けた地域でボランティア活動を行います。

<活動期間:2019年5月中旬～2019年12月上旬 活動日数:15日程度>

<主な実習場所>

神戸市・新潟県小千谷市・岩手県大船渡市・福島県楢葉町など

<日常的なコミュニケーションの手段>

(○)電子メール ()Facebook (○)LINE ()電話

<活動する現場で学生が求められる理由>

災害からの復興の過程では、やがてまちづくりの活動となります。その際、特に被災された方々は(そのご遺族も含めて)若者たちに語り継ぎたい思いを抱いています。共にまちづくり活動に取り組むことで、経験の有無にかかわらず、過去の悲しみを思い起こし、いのちの尊さに触れることが期待されています。

<活動パターン>

- ()毎週1日程度・定例
(○)月1～2回・不定期
()主に夏期休暇・集中
()その他
→具体的には…

<活動のテーマと主な内容>

未来の災害のために一人でも多くのいのちを救う知恵を習得する

このプロジェクトでは、月に1回以上の頻度で、阪神・淡路大震災、新潟県中越地震・東日本大震災で大きな被害がもたらされた地域で活動します。神戸では都市型災害からの復興を「定点撮影」を通して深めます。新潟では住民らによる田植えや稲刈りや盆踊りなどの交流活動に参加し、都市と農村での復興過程の違いを体感します。東北では、大船渡市にて地域の青年会による伝統行事の準備から片付けを支援し、楢葉町にて原子力災害に向き合う人たちの思いに触れるためにインタビューとその内容をポスターにまとめる「聴き綴り」活動などに取り組みます。

東日本大震災は復興の只中にあります。そして、その過程では、外部から多くの協力者が関わります。立命館大学は岩手県大船渡市と、福島県とは学校法人立命館として(小学校から大学院まで)協定を締結しました。距離を越えて、心を寄せ合うことで「Build Back Better」(前よりも良く)の実践が展開、その実践から得られた経験が、次の災害への知恵になるとされています。

担当教員はコアタイム等での対話により、皆さんの知識の構築に貢献します。また、活動を通じ、各キャンパス周辺での地域防災活動の展開など、受講生の自主的な取り組みを歓迎します。

<期待できる学び>

知識:災害復興の「サイクル」を理解した上で、現地で展開される多様な「プロセス」を実感できるようになる。具体的には、災害の種類に応じた支援のパターンやモデルについて自らの経験をもとに自分の言葉で説明できるようになる。

スキル:被災地との距離にかかわらず、復旧から復興への移行を「自分事」として捉えられるようになる。具体的には、自治のあり方について深い関心を向け、まちづくりに関する政策を比較し、分析できるようになる。

遂行能力:災害ボランティアの波及効果として生じる、次の災害に向けた「恩送り」の実践に参加できるようになる。具体的には救急救命講習などを積極的に受講したいと思うようになる。

<活動の流れ>（日時の*印は現地の都合で変更の場合有。なお、移動日は含まず。可能なら前日の手伝いから参加を！）

日時	実習場所	活動内容
4月14日	衣笠キャンパス [KIC]	オリエンテーション（ちなみにこの日、平成28年熊本地震から3年目を迎えます）
5月12日	OIC（予定）	事前学習1・2・コアタイム
5月17～18日*	新潟県小千谷市	住民まちづくり団体「塩谷分校」の田植え交流会に参加・（旧）山古志村等を巡検
5月25～26日*	熊本県西原村	平成28年熊本地震で立命館災害復興支援室が拠点とした農業復興ボランティアを体験
6月1日	OIC（予定）	事前学習3・コアタイム
6月13日	神戸市	人と防災未来センター見学（終了後に神戸の実践家と交流）・定点記録撮影
7月21日	神戸市	コアタイム・定点記録撮影ほか震災アーカイブに関するフィールドワーク
8月3～10日*	岩手県大船渡市	「盛町灯ろう七夕まつり」に参加、準備・後片付けを支援（明治大学等と連携）
8月16日	新潟県小千谷市	【任意】塩谷集落の盆踊りに参加、準備・後片付けの支援
8月22日	OIC（予定）	中間ふりかえり・コアタイム
9月4～7日*	福島県檜葉町	まちづくり組織「ならはみらい」による聴き綴り活動「31人の〈生〉の物語」参加
9月21～22日*	新潟県小千谷市	住民まちづくり団体「塩谷分校」の稲刈り交流会に参加・集落のフィールドワーク等
10月13日	OIC(予定)	コアタイム（必要に応じて定点記録撮影）
10月23日	新潟県小千谷市	【任意】塩谷集落での慰霊祭に参加・交流
11月16日	OIC（予定）	事後学習・コアタイム
12月7日	OIC	活動発表会

※上記の日程で現地で活動に参加できない場合、調整のもとで別日での活動を調整可能です。

<受講生に求めること>

費用	全ての現地活動に参加すると、一定の費用が必要となります。新潟（京都～長岡）には夜行バスあるいは格安航空会社の移動で片道7,000円程度、東北（京都～大船渡、京都～いわき～檜葉）には夜行バスなどの移動で片道12,000円程度と見込んでください。ただし、例年、東北での活動では、立命館災害復興支援室による旅費支援プログラムの適用により、事実上わずかな自己負担で活動が可能でした。現地に到着後には担当教員等が引率します。
参加の姿勢	3キャンパスでの共同開講では2年目となります。（OIC開学以前には、BKCとの共同開講を行っていた時期があり、その際にはSNSやネット会議システムなどを効果的に活用してきました。）専門分野を横断して知恵を深めるために、神戸・新潟・岩手・福島の4つの地域ごとにチームをつくります。コアタイム以外でも、学生どうして密な対話が重ねられることを期待しています。過去の参加者の中には防災サークル（FAST）に参加する学生もいました。
終了後の評価	到達目標にも記したとおり、知識、スキル、遂行能力がそれぞれに高まることを期待しています。その到達点は、いかにして自らの言葉で他者の人生を語り、自分の将来について語ることができるかによって評価できます。それらは突然できるようになるものではありません。例えば、現地で出会った方々に手紙を書く、現地で撮った写真を（Instagram等にアップするだけでなく）フォトブックにまとめるなど、ストーリーを編み上げていく習慣づけが求められます。

3
キャンパス
合同

<その他、プロジェクト実施にあたって期待すること（教職員も含めて）>

地域参加型の学習では、日常的な生活の態度が変わることが期待されます。そうした態度の変化は、何か新しいことを始めるだけでなく、それまで（気づいているか気づいていないかに関係なく）行ってきた行動を止めることも含まれます。もちろん、する／しないといったYesかNoかの選択肢だけでなく、その質を高めていくことも重要です。新聞を読むことで語彙が増える、選挙で誰に投票するかを考え抜くことで行政や税制への理解が深まるなど、そうして態度や行動が変わることによって、結果として導かれる効果もあります。

東日本大震災の際、「微力でも無力ではない」という表現がSNSでよく用いられました。それは災害救援や復興支援だけに通じるものではありません。このプロジェクトでは全員が一同に会する場が少なくとも、それぞれの力を寄せていってください。それが結果として、他人にやさしく、自分に厳しく、誠実に生きていく、教養の高い人格を形成することになるでしょう。

メモ

A large rectangular area defined by a dashed gray border, intended for a memo or drawing. The border is composed of small gray squares, creating a dotted effect. The interior of the rectangle is empty, providing space for text or illustrations.

メモ

